

教育研究上の目的

心理学科は、幅広い専門的な心理学的知見と態度及び技能を具備し、心理学的支援を要する人々に対し、専門知識をもって発達段階に応じた適切な支援のできる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間の心に対する多面的な見方ができる。
2. 心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解に基づき、多様な人々とコミュニケーションが取れる。
3. 専門教育で習得した理論・概念・知識・技能をもとに、社会における諸課題の解決に寄与できる。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（心理学）」の学位を授与する。

①知識・技能

1. 心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）における基本的な理論や概念、データに基づいた実証的な研究方法を理解できる。
2. 専門教育で習得した心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論・概念・技能を人々の生活に応用していく方法を理解できる。
3. データの分析から得られた資料に基づいて、自ら導いた考察や結論を、課題の理解に役立てることができる。

②思考力・判断力・表現力

1. 心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）における基本的な理論や概念に基づいて、人の心や行動の特徴を分析的に考えることができる。
2. 心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）における基本的な理論や概念に基づいて、他者の心や行動の特徴を分析的に考えることができる。
3. 専門教育で習得した心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論・概念・技能に基づいて、課題解決の手立てを考え、他者と共有することができる。

③主体性・多様性・協働性

1. 自らの心と身体を健康を保持増進するために、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を進んで活用しようとする意欲をもつことができる。
2. 人々の心と身体を健康を保持増進するために、専門教育で習得した理論・概念・知識・技能を進んで活用しようとする意欲をもつことができる。
3. 社会的な課題を見出し、専門教育で習得した心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論・概念・技能を活用して、他者と協働しながらその解決に臨むことができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学科では、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけさせるため、教育課程として7領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。

1. 心理学の理論や概念、実証的・科学的な考え方を理解するための基盤となる知識を身につけ、心理学的な心の捉え方を理解する力を養うために、「心理学概論」、「知覚・認知心理学」などの科目を含む【心理学基礎（心のしくみ）】領域を配置する。
2. 人間の心と行動を実証的・科学的に検証・分析する方法を習得するとともに、実習を通して実践に通じる技能を養うために、「心理学実験」、「心理学的研究法」、「心理学情報処理法」を含む【研究法・データサイエンス（心の探求）】領域を配置する。
3. 人間の発達過程に対する多面的かつ複合的な理解を深め、その知識を基盤としながら教育現場に対する理解と指導について実践的に学び、問題や課題を早期に発見する姿勢及び柔軟に対応できる力を養うために、「発達心理学概論」、「教育心理学」、「養護教諭実践論」を含む【発達・教育（心と育ち）】領域を配置する。
4. 心のケア・サポートに関する知識や理論を学び、事例学習や実習を通して心理的な課題への支援・援助に関する専門的知識及び技能を養うために、「臨床心理学概論」、「カウンセリング技法」、「公認心理師の職責」などを含む【臨床（心のケア）】領域を配置する。
5. 社会の諸場面（自己、対人関係、集団、組織）における人々の行動特性を学び、日常生活における課題に対して心理学の専門的知識を活かす姿勢を養うために、「社会心理学概論」、「対人関係の心理学」、「産業心理学」などを含む【社会・産業（心とつながり）】領域を配置する。
6. 学校における児童・生徒の養護及び保健教育・指導に関わる専門的知識や技能を習得し、かつ事例学習や実習を通して現場において問題や課題を早期に発見する姿勢及び問題に対して柔軟に対応できる力を養うために、「学校保健Ⅰ」、「人体の構造と機能及び疾病」、「小児保健看護学」、「健康・医療心理学」などを含む【健康・保健（心とからだ）】領域を配置する。
7. 学びの集大成として、研究論文の作成に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を養うために、「卒業研究」を含む【卒業研究】領域を配置する。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

心理学基礎（心のしくみ）領域

1. 自身の経験や体験を踏まえて、人間の知覚・認知に関わる心のしくみに関する理論や概念、専門知識を習得させる。
2. 自己と他者の共通点や相違点を考察し、人間の知覚・認知に関わる心のしくみを理解させる。
3. 人間の知覚・認知に関わる心のしくみを、脳科学や神経生理学など関連諸領域の知見を交えて理解させる。
4. 知覚・認知の理論や知識に基づいて、自らの行動を省察し人間の行動を論理的・科学的に考察する力を養う。
5. 知覚・認知の理論や知識に基づいて、他者や集団の行動を省察し人間の行動を分析的に考察する力を養う。
6. 知覚・認知的事象のしくみを研究するための方法を論理的に組み立てたり説明したりする力を養う。
7. 知覚・認知的事象を「自分事」として捉えることで人間の心の多様性を理解する姿勢を育成する。
8. 知覚・認知的事象を他者視点で捉え直すことで、多角的に心の多様性を理解する姿勢を育成する。
9. 心のしくみに関する課題を自ら発見し、他者と協働して多角的視点をもって課題解決に取り組む力を養う。

研究法・データサイエンス（心の探求）領域

1. 自分自身について探求的にかつ実証的・科学的に検討するために必要な知識・技能・研究方法などについて理解を深める。
2. 人間の心を実証的・科学的に探求するために必要な知識・技能・研究方法などについて理解を深める。
3. 社会的な課題について心理学的な手法を用いて、実証的・科学的に検証するために必要な知識・技能・研究方法などについて理解を深める。

4. 人間の心について実証的・科学的に探求するために理論や知識に基づいて、自分自身の心や行動を分析的に考える力を養う。
5. 人間の心について実証的・科学的に探求するために理論や知識に基づいて、他者の心や行動を分析的に考える力を養う。
6. 社会的な課題について心理学的な手法を用いて、実証的・科学的に検証する力を養う。
7. 人間の心について実証的・科学的に探求するために理論や知識に基づいて、意欲的に自分自身を探究しようとする態度を養う。
8. 人間の心について実証的・科学的に探求するために理論や知識に基づいて、意欲的に人間理解を進めようとする態度を養う。
9. 社会的な課題について心理学的な手法を用いて、実証的・科学的に検証しようとする態度を養う。

発達・教育（心と育ち）領域

1. 人の生涯にわたる発達の過程と要因に関する基本的な理論や概念、研究方法などについて理解させる。
2. 生涯発達と教育に関する理論・知識・技能を人々の生活に応用していく方法について理解を深める。
3. 生涯発達と教育に関する専門的な知識・技能を用いて、人々の生活や学習における課題についての理解を深める。
4. 生涯発達に関する基本的な理論や概念に基づいて、自分の心や行動とその変化の特徴を分析的に考える力を養う。
5. 生涯発達と教育に関する理論や概念に基づいて、他者の心や行動の特徴とその変化について分析的に考えさせる。
6. 生涯発達と教育に関する専門的な理論・概念に基づいて、実証的な課題解決の手立てを考え、他者と共有する力を養う。
7. 生涯発達に関する心理学的な知見に興味をもって調べ、自らの発達について考えようとする態度を養う。
8. 生涯発達と教育に関する理論・知識・技能を、人々の心と身体を健康を保持増進するために、進んで活用しようとする意欲を養う。
9. 社会生活や教育現場における課題を見出し、生涯発達と教育に関する理論・知識・技能を活用して、他者と協働しながらその解決に臨むことができる。

臨床（心のケア）領域

1. 心理臨床に関する基本的な知識や理論を学び、自らの心理的な課題についての理解を深める。
2. 心理臨床に関する基本的な知識や技能を応用し、人々の心理的な課題を支援・援助するための方法について理解を深める。
3. 心理臨床に関する事例学習や実習を通して得た専門的な知識や技能を用いて、自分自身及び周囲の人々の日常生活における心理的な課題について理解を深める。
4. 心理臨床に関する基本的な理論や概念に基づいて、自らの心の状態や行動の特徴について分析的に考える力を養う。
5. 心理臨床に関する基本的な知識や技能に基づいて、人々の心の状態や行動の特徴について分析的に考える力を養う。
6. 心理臨床に関する事例学習や実習を通して得た専門的な知識や技能を基に、人々の日常生活における心の健康保持増進のための方法を自ら考え、他者と共有する力を育成する。
7. 心理臨床に関する基本的な理論や概念を活用し、自らの心の健康を積極的に保持増進しようとする意欲を育む。
8. 心理臨床に関する基本的な知識や技能を活用し、人々の心理的な課題への支援・援助に積極的に寄与しようとする意欲を育む。
9. 心理臨床に関する事例学習や実習を通して得た専門的な知識や技能を活用し、人々が日常生活の中で心の健康を保持するために他者と協働しながら支援・援助に臨む姿勢を養う。

社会・産業（心とつながり）領域

1. 人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する基本的な理論や概念、研究方法などについて理解を深める。
2. 人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する応用的な理論・概念及び心理学的なデータ分析の技法に基づいて、人々の心や行動の特徴に関する理解を深める。
3. 社会における経験が心理学的手法を用いてどのように説明されるのかを学び、人間の心と行動に対する経験則的な理解を超えた、実証的・科学的な考え方に基づいた課題の理解を身につけさせる。
4. 人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する基本的な理論や概念に基づいて、社会における自分自身の心や行動を分析的に考える力を養う。
5. 人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する理論や概念及び心理学的なデータ分析の技法に基づいて、人々の心や行動の特徴を分析的に考える力を養う。
6. 人間の心と社会とのつながりに関する基本的な理論や概念を用いて、日常生活での経験を分析し、実際にそれらを活用する方法を自ら考え、他者と共有する力を育成する。
7. 人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する基本的な理論や概念を活用し、社会における自分自身の心や行動を理解しようとする意欲を育む。
8. 人間の心と社会の諸場面（人間集団、家庭・家族、対人関係、企業活動）に関する理論や概念及び心理学的なデータ分析の技法を活用し、人々の心や行動の特徴を理解しようとする意欲を育む。
9. 人間の心と社会とのつながりに関する基本的な理論や概念や日常生活での経験を心理学的に分析する技能を活用して、他者と協働しながらその解決に臨む姿勢を養う。

健康・保健（心とからだ）領域

1. 心と身体の健康の保持増進について、保健を中心とした諸領域の専門的知識と基礎的な技能を理解し修得することができる。
2. 保健を中心とした諸領域の専門的知識や基本的技能を、自己及び周囲の人々の心と身体の健康を保持増進に応用していく方法を理解できる。
3. 学校保健における課題の探求とその解決に資する理論・概念・知識・技能を、専門教育を通して理解し修得できる。
4. 心と身体の健康に関する専門的知識に基づいて、健康の保持増進に関して、自ら実践していく態度を備えるとともに、他者に働きかける力を備える。
5. 保健を中心とした諸領域の専門的知識や基本的技能に基づいて、自己及び周囲の人々の心と身体の健康の保持増進をはかる方法を考え実践することができる。
6. 専門教育で修得した保健領域等の理論・概念・知識・技能を活用して、学校保健における課題解決の方策を主体的に考え、連携・協働すべき人々と共有することができる。
7. 心と身体の健康の保持増進に関して、保健を中心とした領域の専門的知識と基本的な技能を自ら進んで学び、他者と協働しながら実践していくことができる。
8. 保健を中心とした諸領域の専門的知識や基本的技能を活用して、自己及び周囲の人々の心と身体の健康の保持増進をはかる方法を、自ら考え実践しようとする意欲を備える。
9. 専門教育で修得した保健領域等の理論・概念・知識・技能を活用して、学校保健における課題を見出して、他者と連携・協働しながら、その解決に臨むことができる。

卒業研究領域

1. 心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論や概念、技能を基盤に、複眼的な視野から専門知識の理解を深める。
2. 自己の関心に基づく研究課題を自ら設定できる能力を育成する。
3. 研究課題を解明するための心理学の実践的・応用的な研究方法を習得させる。
4. 心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論や概念、技能を基盤に、客観的に分析するために必要な理論的思考力を育成する。
5. 他者に対して論理的・客観的に表現する研究プレゼンテーションの能力を育成する。

6. 研究課題に対する論理的・客観的な思考力と表現力を養う。
7. 心理学の主な領域（基礎、発達、教育、臨床、社会、健康）に関する理論や概念、技能を基盤に、分析した結果・知見を地域や社会に結びつけ、還元する姿勢を養う。
8. 他者とのラポールを形成し、複眼的視点から協働して、研究課題を考察・解決する能力を育成する。
9. 研究課題に対して、持続的かつ主体的に取り組む意欲と態度を養う。

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

心理学科 カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎心理学領域	心理学の理論や概念、実証的・科学的な考え方を理解するための基盤となる知識を身につけ、心理学的な心の捉え方を理解する力を養う	心理学概論 心理学リテラシー 感情・人格心理学	心理学基礎論 学習・言語心理学 知覚・認知心理学	神経・生理心理学	
研究法・データサイエンス領域	人間の心と行動を実証的・科学的に検証・分析する方法を習得するとともに、実習を通して実践に通じる技能を養う	心理学統計法 心理学情報処理法 心理学実験	心理アセスメント入門 心理学入門演習 実験計画法 調査法 面接法 観察法 事例研究法	心理学研究法 専門ゼミナール データ解析法 心理学外書講読	
発達・教育領域	人間の発達過程に対する多面的かつ複合的な理解を深め、その知識を基盤としながら教育現場に対する理解と指導について実践的に学び、問題や課題を早期に発見する姿勢及び柔軟に対応できる力を養う	発達心理学概論（発達心理学） 発達臨床心理学（発達心理学） 教育心理学 子どもの発達と環境	乳幼児期の心理学 児童期の心理学 青年期の心理学 福祉心理学 家族心理学（社会・集団・家族心理学） 養護概説 発達支援活動	中高年期の心理学 生徒指導 教育相談（教育・学校心理学） 健康相談活動 養護教諭実践論	
臨床領域	心のケア・サポートに関する知識や理論を学び、事例学習や実習を通して心理的な課題への支援・援助に関する専門的知識及び技能を養う	臨床心理学概論 カウンセリング理論 公認心理師の職責	カウンセリング技法 関係行政論 司法・犯罪心理学 精神疾患とその治療 子どもの心理臨床	成人期の危機と心理臨床 障害者・障害児心理学 心理療法 文化と心理学 現場の心理臨床 心理的アセスメント 心理学的支援法 心理演習	心理実習

社会・産業領域	社会の諸場面（自己、対人関係、集団、組織）における人々の行動特性を学び、日常生活における課題に対して心理学の専門的知識を活かす姿勢を養う	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	コミュニケーションの心理学 対人関係の心理学 グループダイナミクス 産業心理学（産業・組織心理学）	恋愛と結婚の科学 職場のメンタルヘルス 消費者行動の心理学 キャリア心理学
健康・保健領域	学校における児童・生徒の養護及び保健教育・指導に関わる専門的知識や技能を習得し、かつ事例学習や実習を通して現場において問題や課題を早期に発見する姿勢及び問題に対して柔軟に対応できる力を養う	学校保健Ⅰ 学校保健Ⅱ 人体の構造と機能及び疾病 免疫学 衛生学	栄養学 公衆衛生学 解剖生理学特論 リハビリテーション論 精神保健 身体運動の心理学 看護学概論 看護援助方法 救急処置活動 家庭の応急手当	健康・医療心理学 小児保健看護学 臨床看護実習
卒業業	学びの集大成として、研究論文の作成に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を養う			卒業研究
DP	心理学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。 1. 心理学的な研究方法から得られた実証的なデータに基づいて、人間の心に対する多面的な見方ができる。 2. 心理学における基本的な理論や概念を理解し、共感的理解に基づき、多様な人々とコミュニケーションが取れる。 3. 専門教育で習得した理論・概念・知識・技能をもとに、社会における諸課題の解決に寄与できる。			
CP	心理学科では、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけさせるため、教育課程として7領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。 1. 心理学の理論や概念、実証的・科学的な考え方を理解するための基盤となる知識を身につけ、心理学的な心の捉え方を理解する力を養うために、「心理学概論」、「知覚・認知心理学」などの科目を含む【心理学基礎（心のしくみ）】領域を配置する。 2. 人間の心と行動を実証的・科学的に検証・分析する方法を習得するとともに、実習を通して実践に通じる技能を養うために、「心理学実験」、「心理学的研究法」、「心理学情報処理法」を含む【研究法・データサイエンス（心の探求）】領域を配置する。 3. 人間の発達過程に対する多面的かつ複合的な理解を深め、その知識を基盤としながら教育現場に対する理解と指導について実践的に学び、問題や課題を早期に発見する姿勢及び柔軟に対応できる力を養うために、「発達心理学概論」、「教育心理学」、「養護教諭実践論」を含む【発達・教育（心と育ち）】領域を配置する。 4. 心のケア・サポートに関する知識や理論を学び、事例学習や実習を通して心理的な課題への支援・援助に関する専門的知識及び技能を養うために、「臨床心理学概論」、「カウンセリング技法」、「公認心理師の職責」などを含む【臨床（心のケア）】領域を配置する。 5. 社会の諸場面（自己、対人関係、集団、組織）における人々の行動特性を学び、日常生活における課題に対して心理学の専門的知識を活かす姿勢を養うために、「社会心理学概論」、「対人関係の心理学」、「産業心理学」などを含む【社会・産業（心とつながり）】領域を配置する。 6. 学校における児童・生徒の養護及び保健教育・指導に関わる専門的知識や技能を習得し、かつ事例学習や実習を通して現場において問題や課題を早期に発見する姿勢及び問題に対して柔軟に対応できる力を養うために、「学校保健Ⅰ」、「人体の構造と機能及び疾病」、「小児保健看護学」、「健康・医療心理学」などを含む【健康・保健（心とからだ）】領域を配置する。 7. 学びの集大成として、研究論文の作成に取り組み、その過程で課題発見・解決力や論理的思考力を養うために、「卒業研究」を含む【卒業研究】領域を配置する。			

教育人文学部 心理学科 (EC)

専門科目教育課程 2026年度生

科 目 群		卒業に必要な単位数	
共 通 科 目		22単位以上	
学科専門科目	必 修	38単位	90単位以上
	選 択	52単位以上	
自由選択科目		12単位以上	
計		124単位以上	

- 共通科目から、必修科目9単位、選択必修科目6単位を含めた22単位以上を履修
- 専門科目から、必修科目38単位（卒業研究を含む）を含めた90単位以上を履修
- 自由選択科目は、12単位以上を履修
- 合計124単位以上を履修

What's "自由選択科目"!??

- 共通科目22単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 共通科目28単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる。
- 自学科の専門選択科目52単位を超えた分が自由選択科目の単位となる。
例) 自学科の専門選択科目50単位取得した場合は、6単位分が自由選択科目の単位となる
- 他学科の他学科開放科目を修得すると自由選択科目の単位となる。

a～cを組み合わせ（又は単独で）12単位以上を履修

科目 区分	授業科目	単位数		授業 形態	履 修 期	配 当 年 次	他 学 科 開 放	備 考	身につく力 (◎…重要な目的としている ○…主な目的としている)											
		必 修	選 択						基礎理論の理解	自己の分析	欲 自 己 成 長 へ の 意	実践方法の理解	析 他 者 と 現 象 の 分	欲 他 者 支 援 へ の 意	解 題 の 分 析 と 理	解決方策の立案	欲 課 題 解 決 へ の 意			
基礎心理学	☐ 心理学概論	※2		講義	前	1年	×		◎	○	○	◎	○	○						
	☐ 心理学リテラシー		2	講義	前	1・2年	×		◎	○	○									
	☐ 心理学基礎論		2	講義	前	2・3年	×		◎	○		◎	○							
	☐ 感情・人格心理学	※2		講義	後	1・2・3年	×		○	◎	○	○	◎	○						
	☐ 学習・言語心理学	※2		講義	前	2・3年	×			◎	○	○	◎	○	○	○				
	☐ 知覚・認知心理学	※2		講義	後	2・3年	×			◎	○	○	◎	○	○	◎	○			○
	☐ 神経・生理心理学		※2	講義	前	3・4年	×					○	◎	○	◎	○	○	◎		◎
研究法・データサイエンス	☐ 心理学統計法	※2		講義	前	1年	×		◎	○			○		◎	○				
	☐ 心理学情報処理法	2		演習	後	1年	×		◎	○			○		◎	○				
	☐ 心理学実験	※2		演習	後	1年	×		◎	○			○		◎	○				○
	☐ 心理アセスメント入門	2		演習	前	2年	×		○	○	◎		○	◎		◎	○			
	☐ 心理学入門演習	2		演習	前	2年	×		◎	○		◎	○			○	○			
	☐ 心理学研究法	※2		講義	前	3年	×		◎	○			○		◎	○				
	☐ 実験計画法		2	演習	前・後	2・3年	×	5科目中2科目 を履修	◎	○			○		◎	○			○	○
	☐ 調査法		2	演習	前・後	2・3年	×		◎	○			○		◎	○			○	○
	☐ 面接法		2	演習	前・後	2・3年	×		◎	○			○		◎	○			○	○
	☐ 観察法		2	演習	前・後	2・3年	×		◎	○			○		◎	○			○	○
	☐ 事例研究法		2	演習	前・後	2・3年	×		◎	○			○		◎	○			○	○
	☐ データ解析法		2	演習	前・後	3・4年	×		◎	○			○		◎	○			○	
	☐ 心理学外書講読		2	講義	前	3・4年	○		◎	○		○	◎		○					
	☐ 専門ゼミナール	2		演習	後	3年	×		○	○			○	○	◎	◎				◎
発達・教育	☐ 発達心理学概論(発達心理学)	※2		講義	前	1年	×		◎	○		◎			◎					
	☐ 発達臨床心理学(発達心理学)	※2		講義	後	1年	×		◎			◎	○		◎					
	☐ 乳幼児期の心理学		2	講義	後	2年	×		○	◎		○	◎					◎		
	☐ 児童期の心理学		2	講義	前	2年	×		○	◎		○	◎					◎		
	☐ 青年期の心理学		2	講義	前	2年	×		○	◎		○	◎					◎		
	☐ 中高年期の心理学	2		講義	前	3年	×		○	◎		○	◎					◎		
	☐ 子どもの発達と環境		2	講義	後	1・2・3年	×			○	◎		◎	○		○	◎			
	☐ 教育心理学		2	講義	後	1・2年	×		◎	○		◎	○		◎					
	☐ 福祉心理学	※2		講義	前	2・3年	×			◎			◎	○		◎	○			○
	☐ 家族心理学(社会・集団・家族心理学)	※2		講義	前	2・3年	×			◎	○		◎	○		◎				
	☐ 養護概説		2	講義	前	2・3年	×		○	◎		○	◎			◎				
	☐ 生徒指導		2	講義	前	3・4年	×			○			◎	◎		◎	○			○
	☐ 教育相談(教育・学校心理学)	※2		講義	前	3・4年	×			○			◎	◎		◎	○			○
	☐ 健康相談活動		2	講義	前	3・4年	×			○			◎	◎		◎	○			○
	☐ 養護教諭実践論		2	講義	後	3・4年	×				◎		○	◎		○	◎			○
	☐ 発達支援活動		2	実習	前・後	2・3年	×				◎		○	◎		○	◎			◎
臨床	☐ 臨床心理学概論	※2		講義	前	1年	×		◎	○	◎	◎	○	○						
	☐ カウンセリング理論	2		講義	後	1年	×		◎	○	◎	◎	○	○						
	☐ 公認心理師の職責		※2	講義	後	1年	×		◎	○	○									
	☐ 関係行政論		※2	講義	前	2・3年	×		◎	○	○									
	☐ 司法・犯罪心理学		※2	講義	前	2・3年	×		◎	○	○	○	○			○				
	☐ 精神疾患とその治療		※2	講義	後	2・3年	×		◎	○	○	○	○	○						
	☐ カウンセリング技法		2	演習	前・後	2年	×		○	◎	◎	○	◎							
	☐ 子どもの心理臨床		2	講義	後	2・3年	○		○	◎	○	○	◎	○						

科目 区分	授業科目	単位数		授 業 形 態	履 修 期	配 当 年 次	他 学 科 開 放	備 考	身につく力 (◎…重要な目的としている ○…主な目的としている)										
		必 修	選 択						基礎理論の理解	自己の分析	自己成長への意欲	実践方法の理解	他者と現象の分析	他者支援への意欲	課題の分析と理解	解決方策の立案	課題解決への意欲		
臨床	☐ 成人期の危機と心理臨床		2	講義	後	3・4年	×		○	◎	○	○	◎	○					
	☐ 障害者・障害児心理学		※2	講義	前	3・4年	×		○	○	○	◎	○		○				
	☐ 心理療法		2	講義	前	3・4年	×					◎	○	○	○	○			
	☐ 文化と心理学		2	講義	前	3・4年	○		◎			○	○						
	☐ 現場の心理臨床		2	演習	後	3・4年	×					○	◎	◎	○	○	○	○	
	☐ 心理的アセスメント		※2	演習	後	3・4年	×					○	○	◎	◎	◎	◎	○	
	☐ 心理学的支援法		※2	演習	後	3・4年	×					○	○	◎	◎	◎	◎	○	
	☐ 心理演習		※2	演習	後	3年	×							◎	○	◎	◎	◎	
	☐ 心理実習		※2	実習	通	4年	×							◎	○	◎	◎	◎	
社会・産業	☐ 社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)	※2		講義	後	1年	×		◎	◎		○	◎		○				
	☐ コミュニケーションの心理学		2	講義	前	2・3年	○		○			○	◎	◎			◎		
	☐ 対人関係の心理学		2	講義	前	2・3年	○		○	◎		◎	○	◎			○		
	☐ グループダイナミクス		2	講義	前	2・3年	○		◎	○		◎	○	◎		◎	○		
	☐ 産業心理学(産業・組織心理学)	※2		講義	後	2・3年	×		○	◎		○	○	◎			○	◎	
	☐ 恋愛と結婚の科学		2	講義	前	3・4年	×			○	○	◎	◎	◎	○				
	☐ 職場のメンタルヘルス		2	講義	前	3・4年	×			○	◎		◎	◎		◎			
	☐ 消費者行動の心理学		2	講義	後	3・4年	×					◎		○	◎	◎	○		
	☐ キャリア心理学		2	講義	後	3・4年	×			◎	◎			○		◎	◎	○	
健康・保健	☐ 学校保健Ⅰ		2	講義	前	1・2年	×		◎	○	◎	◎					○		
	☐ 学校保健Ⅱ		2	講義	後	1年	×		◎		○		○	○			◎		
	☐ 栄養学		2	講義	前	2年	×		○		◎	◎			○				
	☐ 免疫学		2	講義	前	1・2年	×		○		◎	◎			○				
	☐ 人体の構造と機能及び疾病	※2		講義	後	1年	×		○		◎	◎							
	☐ 衛生学		2	講義	後	1・2・3年	×		◎		○	◎		○					
	☐ 公衆衛生学		2	講義	後	2・3年	×				○	○		◎		◎	◎	○	
	☐ 解剖生理学特論		2	講義	前	2・3年	×		○			◎		○		◎	◎	○	
	☐ リハビリテーション論		2	講義	前	2・3年	○		○		○			◎			◎	○	
	☐ 精神保健		2	講義	後	2・3年	×		◎	○	○	◎	○	○		◎			
	☐ 身体運動の心理学		2	講義	後	2・3年	×			◎				◎	◎				
	☐ 看護学概論		2	講義	前	2・3年	×			○	◎	○		○			◎	○	
	☐ 看護援助方法		2	講義	後	2・3年	×				○	○		◎	○	◎	◎	◎	
	☐ 救急処置活動		2	講義	後	2・3年	×				○	◎		○	○	◎	◎	◎	
	☐ 家庭の応急手当		2	講義	後	2・3年	×				○	◎		○		◎	◎		
	☐ 健康・医療心理学		※2	講義	後	3・4年	×			◎		◎	○						
	☐ 小児保健看護学		2	講義	前	3・4年	×				○	◎	◎	◎		○	○		
	☐ 臨床看護実習		2	演習	後	3・4年	×				○	◎		○		○	◎	◎	
卒業研究	☐ 卒業研究		4	演習	通	4年	×		○	○			○	○	◎	◎	◎		

〔単位数欄の記号について〕

註：※印の科目は、公認心理師資格取得の必須科目

〔専門科目の履修について〕

註：選択必修科目として指定されている科目について、規定の単位数を超えて履修した単位は、選択科目に含めることができる。

〔卒業研究〕の履修について

註1：原則として、「卒業研究」は以下の条件をすべて満たしている場合に限り履修可能である。

①3年次終了時の修得単位数が卒業要件科目のうち84単位以上であること。

②次の4科目を修得していること。

「心理学概論」「臨床心理学概論」「発達心理学概論(発達心理学)」「専門ゼミナール」

註2：原則として、「専門ゼミナール」は以下の条件をすべて満たしている場合に限り履修可能である。

①3年次前期までの修得単位数が卒業要件科目のうち60単位以上であること。

②「心理学実験」を修得していること。

③3年次前期までに、科目区分「研究法・データサイエンス」である「調査法」「面接法」「観察法」「事例研究法」「実験計画法」のうち、少なくとも1科目(2単位)を修得していること。

〔資格の履修について〕

註1：社会福祉主事任用資格の取得希望者は、以下の科目のうち3科目を履修する必要がある。「心理学概論」「栄養学」「公衆衛生学」「リハビリテーション論」「精神保健」「看護学概論」

註2：「心理的アセスメント」「心理学的支援法」「心理演習」を履修するためには、3年前期までの公認心理師資格取得に必須の科目計22科目のうち、18科目の単位を修得している必要がある。

註3：「心理実習」を履修するためには、「心理的アセスメント」「心理学的支援法」「心理演習」の単位を修得している必要がある。

I 認定心理士資格 取得課程（心理学科）

1 「認定心理士」資格取得のための科目一覧表

〔心理学科 2026年度生〕

単位認定第5版

領 域		主 題	科 目	認定 単位数	学科 必修	認定基準			
a	心理学概論	基本	心理学概論	2	○	4 単位以上	基礎科目（a～c）が合計12 単位以上 選択科目（d～h）が16単位 以上 a～i の総計が36単位以上		
		副次	発達心理学概論（発達心理学）	1	○				
			臨床心理学概論	1	○				
b	心理学研究法	基本	心理学研究法	2	○	8 単位以上 最低 4 単位分は c：心理学実 験実習の単位			
			心理学統計法	2	○				
			心理学情報処理法	2	○				
			実験計画法	2					
		副次	データ解析法	1					
			調査法	1					
			c	心理学実験実習	基本			心理学実験	2
心理アセスメント入門	2	○							
事例研究法	2								
		副次	観察法	1				5 領域のうち 3 領域以上で、 それぞれが少なくとも 4 単位 以上。 必ず基本主題の科目を含むこ と	
		d	知覚心理学・ 学習心理学	基本	知覚・認知心理学	2			
					学習・言語心理学	2			
e	生理・比較心 理学	基本	神経・生理心理学	2					
		副次	身体運動の心理学	1					
f	教育心理学・ 発達心理学	基本	乳幼児期の心理学	2					
			児童期の心理学	2					
			青年期の心理学	2					
			中高年期の心理学	2	○				
			教育相談（教育・学校心理学）	2					
			教育心理学	2					
			子どもの発達と環境	2					
			発達臨床心理学（発達心理学）	2	○				
g	臨床心理学・ 人格心理学	基本	カウンセリング理論	2	○				
			子どもの心理臨床	2					
			成人期の危機と心理臨床	2					
			障害者・障害児心理学	2					
			心理療法	2					
			家族心理学（社会・集団・家族心理学）	2					
			感情・人格心理学	2					
			健康・医療心理学	2					
			福祉心理学	2					
		副次	精神保健	1	○				
			精神疾患とその治療	1					
h	社会心理学・ 産業心理学	基本	社会心理学概論 （社会・集団・家族心理学）	2	○				
			コミュニケーションの心理学	2					
			対人関係の心理学	2					
			グループダイナミクス	2					
			産業心理学（産業・組織心理学）	2					
			司法・犯罪心理学	2					
			消費者行動の心理学	2					
i	その他	基本	卒業研究	4	○				

註1：副次主題の科目は、本学では2単位だが、認定心理士の資格申請上は1単位として認定される。

註2：資格の取得や申請に関する詳細は、学科オリエンテーション等で説明する。

2 公認心理師資格 取得課程（心理学科）

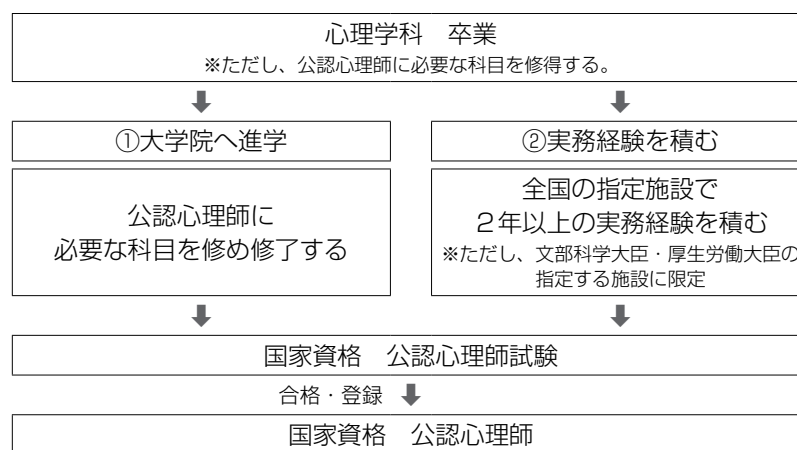
1 公認心理師資格取得について

公認心理師とは、公認心理師として登録し、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育（司法、産業）などの分野で、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次の行為を行うことを業とするものを指します。

1. 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その分析を行う
2. 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う
3. 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う
4. 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行う

公認心理師の受験資格を得るためには、卒業までに「4年制大学において省令で定める科目」の単位を修得しておく必要があります。ただし、単位を修得しただけでは、公認心理師の資格は取得できません。

〈主な公認心理師養成ルート〉



2 履修方法

公認心理師の受験資格を得たい者は、「4年制大学において省令で定める科目（25科目）」に対応する本学の開講科目（27科目）を卒業までに全て修得する必要があります。本学科では、心理実習に参加するために必要な科目などが指定されていますので、計画的に履修をしてください。

法令上の科目名	本学対応科目	単位数		履修期	配当学年	備考
	科目名	必修	選択			
公認心理師の職責	公認心理師の職責		2●	後期	1	
心理学概論	心理学概論	2●		前期	1	
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2●		前期	1	
心理学研究法	心理学研究法	2●		前期	3	
心理学統計法	心理学統計法	2●		前期	1	
心理学実験	心理学実験	2●		後期	1	
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学		2●	後期	2・3	
学習・言語心理学	学習・言語心理学		2●	前期	2・3	
感情・人格心理学	感情・人格心理学		2●	後期	1・2・3	
神経・生理心理学	神経・生理心理学		2●	前期	3・4	
社会・集団・家族心理学	社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）	2●		後期	1	*2科目取得する必要あり
	家族心理学（社会・集団・家族心理学）		2●	前期	2・3	
発達心理学	発達心理学概論（発達心理学）	2●		前期	1	*2科目取得する必要あり
	発達臨床心理学（発達心理学）	2●		後期	1	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学		2●	前期	3・4	
心理的アセスメント	心理的アセスメント		2■	後期	3・4	*実習不可欠科目
心理学的支援法	心理学的支援法		2■	後期	3・4	*実習不可欠科目
健康・医療心理学	健康・医療心理学		2	後期	3・4	
福祉心理学	福祉心理学		2●	前期	2・3	
教育・学校心理学	教育相談（教育・学校心理学）		2●	前期	3・4	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学		2●	前期	2・3	
産業・組織心理学	産業心理学（産業・組織心理学）		2●	後期	2・3	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2●		後期	1	
精神疾患とその治療	精神疾患とその治療		2●	後期	2・3	
関係行政論	関係行政論		2●	前期	2・3	
心理演習	心理演習		2■	後期	3	*実習不可欠科目
心理実習	心理実習		2	通年	4	*心理的アセスメント、心理学的支援法、心理演習の単位が修得できていなければ、受講不可

註1：●印の科目の単位の中から、3年前期までに18科目以上修得していなければ、「心理的アセスメント」、「心理学的支援法」、「心理演習」を受講することはできません。

註2：■印の科目の単位を3年後期までに修得していなければ、「心理実習」を受講することはできません。

註3：公認心理師の受験資格を得たい者は学科の指示に従ってください。

3 ピアヘルパー資格 取得課程（心理学科）

1 ピアヘルパー資格取得要件

下表の5科目のうち2科目4単位を修得することが、認定試験の受験資格となります。認定試験は毎年2月上旬（予定）に本学で行います。

【心理学科 2026年度生】

本学開設科目	授業形態	単位数		履修期	配当学年
		必修	選択		
臨床心理学概論	講義	2		前期	1
カウンセリング理論	講義	2		後期	1
カウンセリング技法	演習		2	前・後	2
子どもの心理臨床	講義		2	後期	2・3
精神保健	講義	2		後期	2・3
小 計		6	4		

4 准学校心理士資格 取得課程（心理学科）

1 「准学校心理士」資格取得要件

「准学校心理士」は「学校心理士」に準ずる資格です。Aタイプ、Bタイプのいずれかの資格を取得できます。

- ・ Aタイプ（学校教員型）：教員免許を有する者（取得見込みを含む）を対象に准学校心理士の資格が認定されます。
- ・ Bタイプ（相談支援機関専門職類型）：公認心理師カリキュラム対応学部を卒業する者（見込みを含む）を対象に准学校心理士の資格が認定されます。

資格を得たい者は取得要件となる科目を修得し、書類審査に合格する必要があります。

【心理学科 2026年度生】

Aタイプ

規定科目	本学開設科目	授業形態	単位数		履修期	配当学年	備考
			必修	選択			
教育心理学	教育心理学*	講義		2	後期	1	
発達心理学	発達心理学概論（発達心理学）	講義	2		前期	1	* 2科目取得する必要あり
	発達臨床心理学（発達心理学）	講義	2		後期	1	
教育相談	教育相談（教育・学校心理学）*	講義		2	前期	3	
特別支援教育	特別な教育的ニーズの理解と支援B*	講義		2	前期	1	

*「教育心理学」「教育相談（教育・学校心理学）」「特別な教育的ニーズの理解と支援B」は教職課程の必修科目です。

Bタイプ

規定科目	本学開設科目	授業形態	単位数		履修期	配当学年	備考
			必修	選択			
教育・学校心理学	教育相談（教育・学校心理学）	講義		2	前期	3	
発達心理学	発達心理学概論（発達心理学）	講義	2		後期	1	* 2科目取得する必要あり
	発達臨床心理学（発達心理学）	講義	2		前期	1	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	講義		2	前期	3	
福祉心理学	福祉心理学	講義		2	前期	2	
心理的アセスメント	心理的アセスメント*	演習		2	後期	3	
心理学的支援法	心理学的支援法*	演習		2	後期	3	

*「心理的アセスメント」「心理学的支援法」は履修要件があります。

註1：申請時に在学しており、申請年度に卒業を予定している必要があります。卒業後の申請は認められません。

註2：Aタイプは3科目6単位以上、Bタイプは在学時に6科目12単位を修得する必要があります。